金額が大きい。

10表　地域別A・B群の教育費

		農山村地域		純農村地域	
		A	B	A	B
市支	平均	105.2	92.6	106.9	89.6
町出	標準偏差	41.0	35.9	37.0	29.9
村金	変異休数	39.0	38.7	34.6	33.4
				単位千円	
私	平均	11.5	9.8	15.7	13.5
	標準偏差	6.6	6.2	17.2	13.5
費	変異休数	57.0	63.4	109.7	99.6
				単位百円	

② 教員に関する事項

調査票の教員に関する事項には，免許状，学歴，経験年数の3項目がある。

ア　教員免許状

この項には授業担当教員で普通免許状－1・2級―を所有する者の数と，その総数に対する割合とがある

免許状所有者の割合の平均は11表のごとく，2地域ともA群の数値が大きい。

11表　地域別A・B群の教員免許状

	農山村地域		純農村地域	
	A	B	A	B
平均	88.0	82.2	89.0	87.5
標準偏差	13.6	21.9	12.6	11.5
変異休数	15.4	26.6	14.1	13.1

イ　学歴

学歴の項は，授業担当教員の学歴をa大学・高専短大卒と，bその他に大別し，さらにaについては教員養成学校の卒業者とその他に分けて調査している。

2地域のA・B両群におけるaの割合は12表のようにともにA群の数値が大きい。

12表　地域別A・B群の大学高専短大卒の割合

	農山村地域		純農村地域	
	A	B	A	B
平均	59.9	56.7	50.5	50.2
標準偏差	22.3	28.0	21.8	23.5
変異付数	37.2	49.3	43.2	46.9

ウ　経験年数

経験年数の項は，授業担当教員の経験年数を0～5 6～15，16～の3階級にわけてそれぞれへの教員数および百分比を調査している。

地域のA・B群に属する学校の経験年数の3階級への百分比の平均は13表のごとくで，ともにA群の5～16の階級がB群よりややその数値が大きい

13表　地域別A・B群の経験年数

年数	農山村地域		純農村地域	
	A	B	A	B
0 ～ 5	32.5	41.2	16.7	18.9
6 ～ 15	47.2	36.6	56.1	52.3
16 ～	20.3	22.2	27.2	28.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

③　授業時数

授業時数の項は，45分を1単位とした，国語，算数の年間の授業時数を調べている。

2地域の両群の平均時数は14表のようにA群はB群より時数が大きく，標準偏差はともに極めて小さい。

14表　地域別A・B群の授業時数

項目	地域	農山村地域		純農村地域	
		A	B	A	B
国	平均	260.6	256.3	255.8	254.8
	標準偏差	11.3	12.6	14.2	10.9
語	変異付数	4.3	4.9	5.5	4.3
算	平均	229.2	226.8	227.3	224.8
	標準偏差	12.4	11.2	11.0	10.4
数	変異係数	5.4	4.9	4.8	4.6

④　図書の保有冊数

この項は，図書の合計冊数と基数および比率とを調査している。比率の平均は2地域ともA群の数値が大きい。

15表　地域別A・B群の図書

	農山村地域		純農村地域	
	A	B	A	B
平均	91.1	71.7	98.9	87.4
標準偏差	43.9	58.6	32.1	35.1
変異休数	48.2	81.8	32.5	40.2

(7)　結び

○　知能による修正後の学力の地域差をみようとしたので，地域全般にわたって標本を抽出したが，ただ同一地域内での教育的要因の究明のためには，その地域内での学力の知能に対する回帰直線を用いる方が至当と思われる。

○　学力と推定値との差の正・負による分割よりも上位，下位分折法のように差の大きいものの方からの25～30%，小さいものの方からの25～30%をもって2群を編成すれば，より明確な結果が得られると考えられる。